

藤田医科大学 研究推進本部 イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター 2023 年報

Research center for implementation nursing science initiative
Annual report 2023. January 1 – December 31



FUJITA HEALTH UNIVERSITY

目 次

1. メンバー	1
2. センターの概要	2
3. 研究活動実績	4
3-1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動	4
1) リンパ浮腫管理成功に向けたエコーを用いたアドバンストリンパ浮腫 ケアモデルの確立と実装 (PI: 臺 美佐子)	
2) 携帯型エコー使用した排便アセスメントによりケアが選択できる看護師の 育成と上記看護師を含めたチーム医療体制の構築 (PI: 小柳 礼恵)	
3) 看護理工学的アプローチによる次世代型アドバンストスキンケアモデルの 確立 (PI: 光田 益士)	
4) 第6のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・ 普及 : 末梢静脈カテーテル留置技術 (PI: 村山 陵子)	
5) エコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく肺炎予防効果の実装研究 (PI: 三浦 由佳)	
3-2. 新たな研究テーマへの取り組み	11
1) 内閣府「先端的サービスの開発・構築や先端的サービス実装のためのデータ 連携等に関する調査事業」(AI診断支援ソフト搭載のエコーを活用した地域医療・ 介護におけるタスク・シフト/シェア推進) (PI: 須釜 淳子、三浦 由佳)	
2) VR教材を取り入れた教育プログラム開発 (PI: 三浦 由佳)	
4. 教育活動実績	14
4-1. 学部教育	14
4-2. 大学院教育	15
4-3. 社会実装看護創成研究センター ゼミナール	16
5. 社会的活動実績	18
5-1. 主な学会での活動	18
5-2. 主たる活動実績	20
6. 外部資金獲得	25
7. 研究業績	28

社会実装看護創成研究センター 2023 年報

Research center for implementation nurisng science initiative Annual report 2023. January 1 – December 31

1. メンバー

センター長 教授 須釜 淳子
専任教員 教授 村山 陵子
准教授 臺 美佐子（～3月31日）
講師 小柳 礼恵
講師 光田 益士
講師 三浦 由佳
客員教員 教授 臺 美佐子（4月1日～）
研究補助員 池田 真弓（～3月31日）
大学院生（下線：2023年度入学生）
博士課程2年 佐野 友香、間脇 彩奈
博士課程1年 富田 元、石亀 敬子、河裾 永恵、山本 駿
修士課程2年 田村 茂、西本 由美
修士課程1年 池田 真弓、河崎 明子、野村 梨帆、齋藤 裕也
アドバイザー 真田 弘美 教授
(石川県立看護大学 学長)



写真1. 2023年1月時点のセンター教員
(左から前列:村山・須釜, 後列:臺・小柳・三浦・光田)

2. センターの概要

2021年4月1日より藤田医科大学保健衛生学部に「社会実装看護創成研究センター」が新設された。2022年4月より大学組織再編に伴い、研究推進本部イノベーション推進部門（齋藤邦明・部門長）に配置換えとなった。なお、センターに所属する教員は、2023年4月から保健衛生学部看護学科の所属となり、センター兼務となった。

臨床現場の技術革新が進む中、看護領域においてもロボットやInformation and Communication Technology (ICT)、Artificial Intelligence (AI)などのテクノロジーの有効活用が求められている。一方で、医工連携と異なり、看護連携の社会実装に関する理論および方法論は、未だ確立されていないのが現状である。本センターでは、大学病院や地域包括ケア中核センターと協力し、看護実践の場でこれらの研究を推進するとともに、次世代を担う人材の育成にも取り組む。

体制は、臨床のニーズや課題の抽出、データベース化および実装研究を行う共創型研究部門と、同部門が抽出した課題に対し看護理工学からアプローチする課題焦点型研究部門の2部門である（図2-1）。生体・生活情報を導出するシステム構築やデバイス開発を通じて、健康増進や保健・医療、さらには地域包括ケアやまちづくりに寄与することをめざす。

なお、ミーティング室、実験室は9号館5階に設置されている。

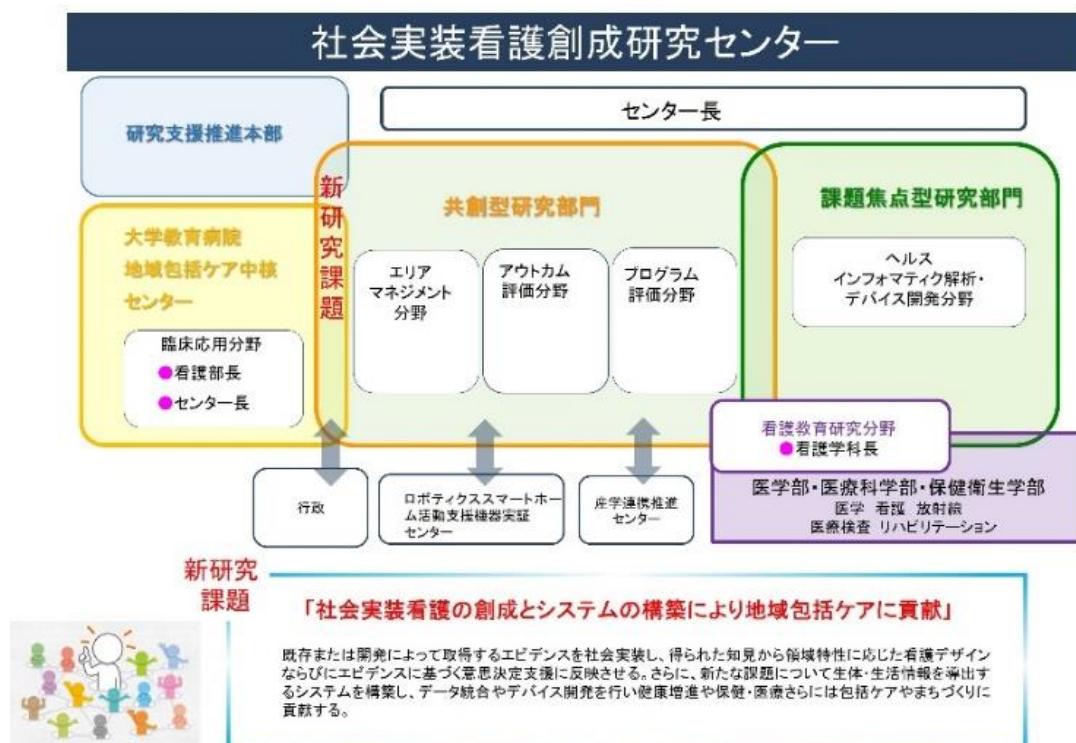


図 2-1. 社会実装看護創成研究センターア体制図

2023年3月末で臺美佐子准教授が退職し、石川県立看護大学に教授として異動した。4月以降5名の教員でセンターの活動を推進した。毎週火曜日午後に研究ミーティングを開催し、センター専任教員が主導する研究の進捗、論文抄読、学術雑誌の最新情報の共有、実装科学の基礎学習を行った。

教育病院との連携を深めるため、毎月1回、第1教育病院看護部（眞野恵好統括看護部長、他）にて、第2～4病院看護部（相原晶子看護部長、松嶋文子看護部長、小島菜保子看護部長、他）ともオンラインで接続し、臨床研究に関する打ち合わせを行った（写真2-2）。

2023年4月から大学院教育のプラットフォームとしての役割を果たした。看護学科竹原君江教授、中村小百合教授のゼミと合同で毎週月曜日に大学院生の学位論文（修士、博士）の進捗報告、論文抄読を行った。



写真2-2. 看護部との定例ミーティング(2023.1撮影)

3. 研究活動実績

3-1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動

【目指す姿】

世界一独創的な研究拠点へ：未来社会の期待に応える次世代研究の推進

世界に誇れる「藤田の看護」を創成する

【中期目標】

看護理工学を基盤とした看護技術開発の推進、および開発した技術の社会実装の手法を確立しエビデンス・プラクティスギャップを埋める(PI: principal investigator)

1) リンパ浮腫管理成功に向けたエコーを用いたアドバンストリンパ浮腫ケアモデルの確立と実装 (PI: 臺 美佐子)

【リンパ浮腫のケア選定のためのエコーラルゴリズムの考案と実装】

リンパ浮腫管理におけるエコー評価は、診断・重症度評価・ケア選択と各目的に応じて国内外で検討が進められている。本研究では、保存療法を主軸としたリンパ浮腫ケア選定の質向上に向けて、真皮・皮下組織の内部性状を評価する"リンパ浮腫ケア選定のためのエコーラルゴリズム"を考案し、その効果検証と実装を図ることを目的とする。

アルゴリズムは、リニア型プローブ・10-18MHz 周波数のエコーで真皮・皮下組織を観察し、層構造、浅筋膜、敷石様像、真皮低エコー所見の特徴から、圧迫療法やリンパドレナージの追加といったケア計画検討をアシストする形式とした(図 3-1)。また、リンパ浮腫保存療法に遠隔システムを急性期病院 1 施設に導入し、1 カ月に 1 回の保存療法指導を遠隔で実施した。リンパ浮腫の保存療法が必要な患者 23 名に実施し、現在はセルフケア導入・継続への有効性を分析中である。今後、エコーラルゴリズムをこの遠隔システムに導入することで、リンパ浮腫管理の新たな方法としての提案が期待される。

なお、これらの活動は、社会実装看護創成研究センター、藤田医科大学病院リハビリテーション科、藤田医科大学産官学連携推進センター、東京大学医学部附属病院形成外科、川崎医科大学附属病院形成外科、が協働し、実施しており、科研費基盤 (B) の採択を受けて実施している。また、今年度、リンパ浮腫保存療法のエコーラルゴリズムについて国際学会 1 件 (Dai M, 11th International Lymphoedema Framework Conference)、国内学会 2 件 (臺, 第 42 回日本静脈学会学術集会, 臺・須釜他, 第 43 回日本看護科学学会学術集会) で発表し、リンパ浮腫遠隔システムについて国内学会 1 件で発表した (臺他, 第 12 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会)。

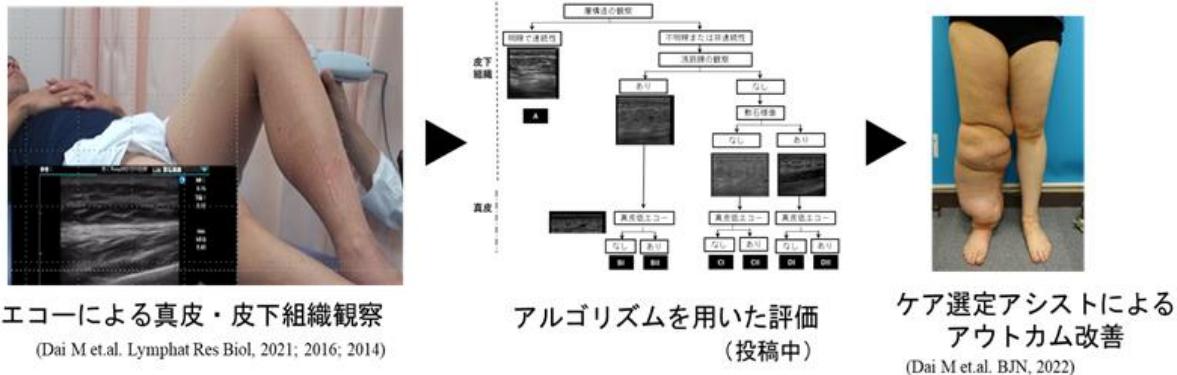


図 3-1. エコーによる観察とアルゴリズムの活用



図 3-2. 今後の展望

2) 携帯型エコー使用した排便アセスメントによりケアが選択できる看護師の育成と上記看護師を含めたチーム医療体制の構築 (PI: 小柳 礼恵)

排泄に関するケアの向上には「排尿自立支援加算」「IAD のベストプラクティス」により対策が取られている。高齢者の便秘は有病率が高く死亡リスクも高いとされている。しかし、未だエビデンスがある対策が普及していない。先年に引き続き携帯型エコーを用いたベットサイドにおける可視化評価により効果的な評価、ケア介入を実施するための研究を実施している。

当センターでは、関連学会、国立長寿医療研究センターと協働し、超高齢社会に備え病院、在宅が包括的にチーム医療として便秘対策に取り組み、アセスメントとケア方法のエビデンス構築と実装研究を進めている。当センターは継続して排泄ケアの質の向上、医療経済への貢献を目指として以下を実施した。

- (1) 関連学会と連携しエビデンスに基づく排便ケアの啓発
 - ・公益社団法人 日本看護科学学会
「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」作成委員会委員 須釜 淳子、小柳 礼恵
 - ・公益社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
便秘対策アドホック委員会 須釜 淳子、小柳 礼恵

排便サポートチーム介入の効果検証研究の実施 論文投稿済み

以上の活動により、排便ケアの質の向上、エビデンスに基づいた排便ケアの普及を推進している。

(2) 高齢者を対象とした排便ケアに関するチーム医療の普及

- ・国立研究開発法人長寿医療研究センター 排便サポートチームの設置と協働

超高齢化社会が進む中、認知機能が低下した高齢者のニーズと医療者のアセスメントにより患者へ適切な排便ケアの提供が課題となっている。その課題を解決するために上記施設と協働して排便ケアの質の向上と推進を実施している。

- ・排便サポートチーム：国立研究開発法人長寿医療研究センター（写真 3-1）

病院：松浦 俊博、山田 理、竹内 さやか、西崎 成紀

客員研究員：小柳 礼恵

- ・研究実績は、英語論文 1 本、学会発表 4 本（うち 1 本は英語）である。



写真 3-1.
国立長寿医療研究センター: 排便サポートチーム
(2024 年 3 月撮影)

(3) 排便ケアに関わる看護師への教育活動

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会の活動の一環である「排便管理講習会（エコー講習会含む）」では、講師として講習会に協力している。

排便管理講習会（日本創傷・オストミー・失禁管理学会）：講師 小柳 礼恵

（排泄エコー講習会：RINGE）：講師 三浦 由佳、小柳 礼恵

在宅保健師会「あいち」研修会：在宅における排便管理：講師 小柳 礼恵

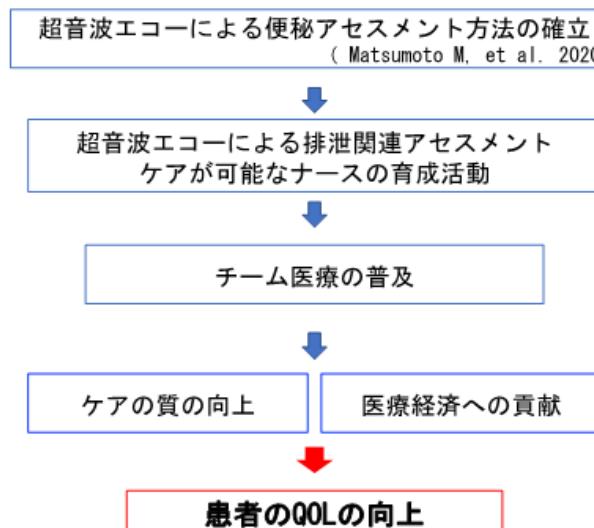


図 3-3. 携帯型エコーによる
ベッドサイドでのアセスメント

3) 看護理工学的アプローチによる次世代型アドバンストスキンケアモデルの確立 (PI: 光田 益士)

看護学と理工学との融合型研究を通じて、看護技術の定量化・可視化・効率化、および未来に向けた新たな看護の価値創造への貢献を目指す。2022年度に引き続き、2023年度も藤田医科大学第1教育病院看護部との共同研究、産学連携による企業との研究、および外部研究者を交えた連携研究を多数実施した。以下、3つの基幹研究を報告する。

(1) 裤瘡再発予防の評価モデル開発

褥瘡発生および褥瘡再発に関与することが分かっている外力（ずれ力、摩擦力、圧力）およびその複合力を同時に定量化するための評価モデルを開発した。既存の多層シリコーンフォームドレッシング材あるいは未発売ドレッシング材の使用により外力および複合力の低減を認めた。未発売ドレッシング材の結果は2024年度の成果発表を予定する。

(2) 失禁関連皮膚炎の生物学的リスクファクター探索

失禁関連皮膚炎の予防を目的に新たなアドバンストスキンケア手法の開発を試みている。排尿自立支援が課題となっている脳卒中患者に着目し、急性期病院1施設に入院する脳卒中患者の失禁関連皮膚炎の保有と陰部皮膚表面に存在するウレアーゼ産生菌との間に有意な関連があること、および失禁関連皮膚炎の未保有患者と比較し、保有患者には黄色ブドウ球菌が有意に存在することを明らかにした。本研究は第55回藤田医科大学医学会優秀演題賞(コ・メディカル系)を受賞した。



図3-4. 失禁関連皮膚炎とウレアーゼ産生菌

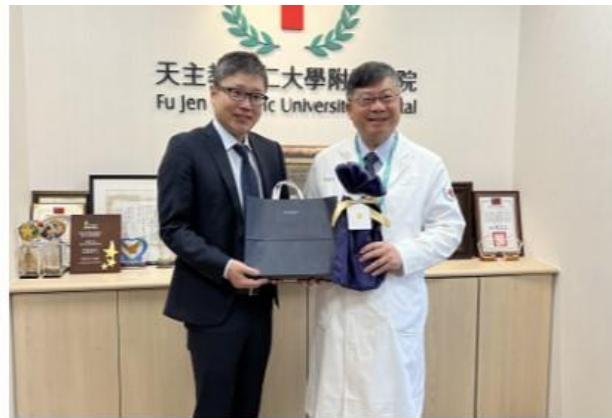
(3) 裤瘡予防における実装科学

在宅療養者を中心とした地域における医療・介護の連携推進を目指す一環で、これまでに在宅での褥瘡予防に利用可能なリスクアセスメントスケール「床ずれ危険度チェック表」、およびそのスケールを活用するための床ずれ予防プログラムを開発した。実装科学の観点から、本年度は床ずれ予防プログラムの活用における阻害要因・促進要因の探索に関する質的調査を行った。床ずれ危険度チェック表に関して、Taiwan Wound, Ostomy and Continence Nurses Association で招待講演を行った。



Taiwan Wound, Ostomy and Continence Nurses Associationの理事長・Po-Jui Yu先生との記念撮影
(2023年10月29日, 台北)

写真 3-2.



Fu Jen Catholic University Hospitalの院長・
Juey-Jen Hwang先生との記念撮影
(2023年10月30日, 台北)

写真 3-3.

4) 第 6 のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・普及 : 末梢静脈カテーテル留置技術 (PI: 村山 陵子)

センター開設時より目標とした「看護理工学を基盤とした看護技術開発の推進、および開発した技術の社会実装の手法確立」では、最も活用を促すツールとして超音波検査装置（エコー）に着眼し、様々な場面でのアセスメント技術として導入を推進している。2022 年度からは、末梢静脈カテーテル留置の際に活用するツールとして技術の普及の段階に入った。

(1) エコーを用いる末梢静脈カテーテル留置技術の実装研究(藤田医科大学病院)

カテーテル留置技術にエコーを取り入れたアルゴリズムのなかでは、①血管選定時、②穿刺時、③カテーテル固定時、におけるエコー使用を促している。がん薬物療法においては、その中でも①血管の選定時、そして③血管内に留置されたカテーテルの確認のためのエコー活用が、血管の温存、および安全・安楽なケアの提供に欠かせないという臨床現場のニーズがあることを確認した。

そこで研究協力者である藤田医科大学 医学部教授 河田 健司 先生、看護長 神納 美保 様とともに、エコーの操作技術を身に着け、研究参加に同意した外来薬物療法センター所属看護師による技術導入を進めた。導入にあたっては、臨床の看護師自らがアルゴリズムを再開発するプロセスがあった（図 3-5）。導入 5 か月間の前後のカテーテル留置の実態を、中間結果として集計、実装の阻害要因・促進要因を整理するためのインタビュー調査を行った。

今後はその結果を活かし実装戦略を再考し、ステークホルダーである臨床の看護師と意見交換しながら、継続して研究を進める。なお、本研究は科学研究費 基盤研究（B）「点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準：日本版の開発と普及」の補助金交付を受けて実施している。

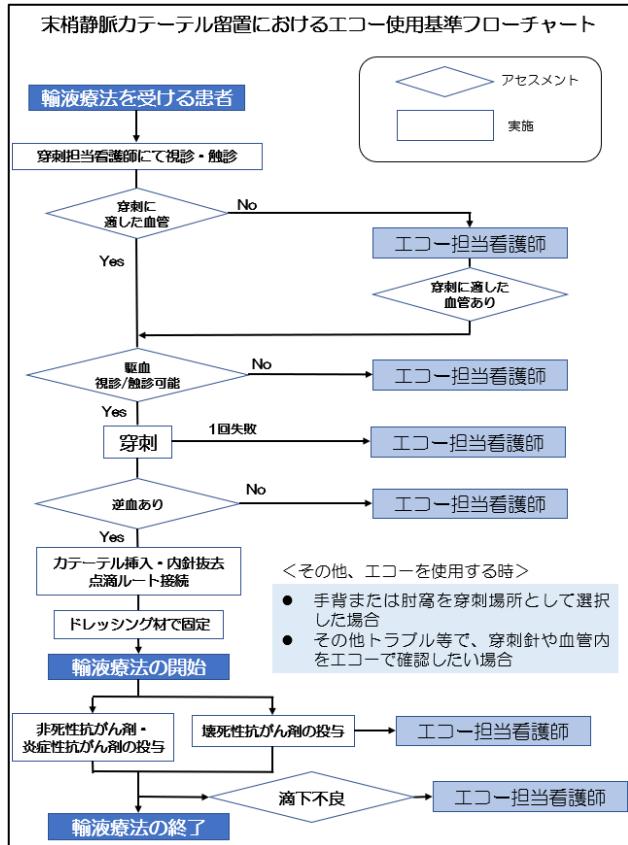


図 3-5. 臨床現場に合わせて
再開発されたアルゴリズム

(2) エコーを用いる可視化技術の教育体制のモデルの確立

フィジカルアセスメントのツールとしてエコーを用いることは、より深く解剖学的知識を身に付けられる機会となる。また近年、デジタル機器の発達は目覚ましく、義務教育での取り入れが加速していることもある。そこで、教育体制として確立すべきは、①看護基礎教育におけるエコー活用方法の習得、②看護師の卒後教育（院内教育）におけるエコー活用方法の習得が普及促進につながると考える。

①看護基礎教育におけるエコー活用方法の習得

看護基礎教育をうける学生の機器取り扱いへの抵抗感はなく習得のスピードも速い。したがって、看護基礎教育の段階で「聴診器」のようにエコーを使うことができれば、看護師として臨床でケアを行う際に、様々な場面で活用することが可能となる。

そこで、看護理工学会の学術委員会の研究プロジェクトに応募し、採択された。

- プロジェクト名：看護学生のためのエコーを用いるフィジカルアセスメント技術導入促進プロジェクト

●活動内容：看護学における基礎教育の段階から、フィジカルアセスメントの技術として、視診・聴診・打診・触診・問診と同列に、エコーの有用性を学習し、活用できるようにする。そして、その学習効果を検証する。

●方法：教材の作成（参考書）

教材を利用した効果検証の研究

今後、看護系研究者、工学系研究者と共同で教育体制のモデル構築を目指し、2026年8月まで活動していく予定である。

②看護師の卒後教育（院内教育）におけるエコー活用方法の習得

臨床のニーズに合致させた場面でのエコーの活用（カテーテル留置技術における院内教育プログラム作成）を提案し、エコーの普及促進を目指して活動した。

医師のタスク・シフト／シェアを実現するべく、医療職者がそれぞれの専門的知識・技術を発揮していくことが推奨されている。看護師に推奨されるタスク・シフト／シェアには、静脈路確保についても含まれる技術とされる。そこで2023年は、院内認定教育における看護師の静脈路確保技術の習得内容に、エコー活用を含める方向で、藤田医科大学病院の各拠点病院における院内教育プログラムを作成中である。各拠点病院において、まずは看護師が使用するためのエコー購入が進んだ。

(3) エコーを用いたカテーテル留置技術をサポートする周辺機器開発

医療機器・材料開発企業との共同研究により、PIの前任の大学在任中、より血管径の大きい静脈がある上腕に留置できるカテーテル（テルモ株式会社）を、また血管を表示し、血管径・深さの測定値が表示されるAI（artificial intelligence）機能を開発、搭載した携帯型エコー（富士フイルムメディカル株式会社）はすでに市販された。さらにエコー透過性に優れ、しかも穿刺の際に同時に使用できるフィルムドレッシング（ニチバン株式会社）が2023年1月に上市に至った。

2023年にはそれらの活用の実際などにつき、様々な機会を通じて公表した（論文、学会発表、講演など）。

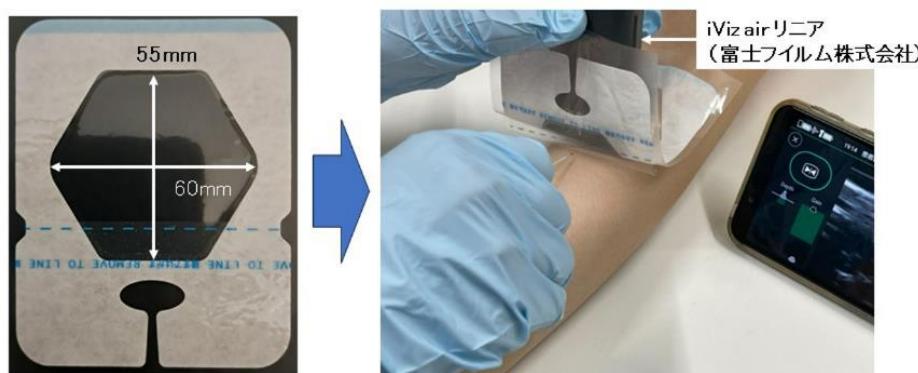


図3-6. 新フィルムを貼付して穿刺する方法（村山他, 2023）

5) エコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく肺炎予防効果の実装研究 (PI: 三浦 由佳)

AI を用いて誤嚥物・咽頭残留物が自動で着色されたエコー画像を含むデータベースから、誤嚥性肺炎の予防のためのケア介入アルゴリズムを提案する仕組みを作り、介入の実装評価を行うことが目的である。AI を用いたエコーによる咽頭残留物の定性・定量的評価方法の開発を目指し、リハビリテーション学科と共同し 3D-CT 画像とエコーの同時撮影方法を作成した。今後は健常者及び嚥下障害患者で症例を集積していく予定である。また、エコー技術の訓練を受けた看護師自身が撮影したエコー画像をサーバーに上げ、研究者からのフィードバックを受けられるシステムを作成した。このシステムを用いて AI 作成のもととなるデータを現在集積している。

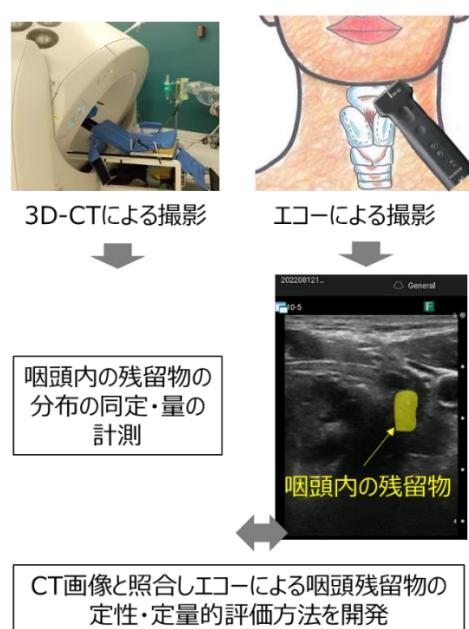


図 3-7. 3D-CT 画像とエコーの
同時撮影による評価



図 3-8. エコー画像蓄積システム

3 – 2. 新たな研究テーマへの取り組み

1) 内閣府「先端的サービスの開発・構築や先端的サービス実装のためのデータ連携等に関する調査事業」(AI 診断支援ソフト搭載のエコーを活用した地域医療・介護におけるタスク・シフト／シェア推進) (PI: 須釜 淳子、三浦 由佳)

近年、小型化された超音波画像診断装置（エコー）を利用した評価が注目されている。特に認知症等を有する高齢者は、自ら症状を伝えることが難しく、施設や在宅においては適切な治療やケアが十分提供できていない現状である。療養者の QOL 向上のためにには、エコーを用いた“可視化”により、医師、医用画像の撮影を行う

技術、日々のアセスメントとケアを行う看護師、機能訓練を行う理学療法士（Physical Therapist: PT）、作業療法士（Occupational Therapist: OT）、言語聴覚士（Speech Therapist: ST）、日常生活の支援を行う介護福祉士など、多職種の共通理解のもとで、最適な治療やケア、訓練、介護の提案と実践が重要である。

本調査事業では、

- 1 多職種への排泄ケア・嚥下ケアエコー教育プログラムの到達度の評価
- 2 エコーを用いた排泄ケア・嚥下ケアの実践の評価
- 3 膀胱内尿量測定 AI と直腸便検出 AI の活用実績評価

を試行し、そのデータを体系的に収集・評価した。



写真 3-4. 排泄ケア技術講習会の様子



写真 3-5. 嚥下ケア技術講習会の様子

2) VR 教材を取り入れた教育プログラム開発 (PI: 三浦 由佳)

非侵襲的かつリアルタイムに体内を可視化できるエコー技術は、フィジカルアセスメントに活用することで様々な看護ケアの質を向上できると期待が高まっている。看護師養成課程の段階から技術習得を経験することは、看護師におけるエコーを用いたケアの実装をより促進するだろう。成人看護学分野および企業と共同し、学部学生向けの、末梢静脈留置カテーテルや膀胱内の尿などのエコー画像を身体のどの部位にどのようにプローブを当てれば取得できるのか、リアルに 3 次元空間におい

てイメージできる VR 教材を作成した。これは、ヘッドセットとタブレット両方で視聴可能な教材である。今後はこの教材を用いた学部学生などの技術演習時の学習効果を評価予定である。

なお本事業は、大学改革推進等補助金ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の一環として看護学科成人看護学講座（中村小百合教授、織田千賀子講師他）と共同で行った。成果の一部を日本看護教育学会第 33 回学術集会交流セッションにて発表した（福岡、2023 年 8 月 26 日）。



写真 3-6.日本看護教育学会第 33 回学術集会 交流セッションの様子

4. 教育活動実績（2023年度として掲載）

4-1. 学部教育 †

科目名	開講時期	担当者 †
基礎科目		
基礎ゼミ	1年全期	村山、小柳、光田、三浦
専門科目		
アセンブリ II ‡	2年全期	光田
看護管理学	4年前期	小柳
基本看護技術II	1年後期	村山、小柳、光田
看護過程展開論II	2年前期	村山、小柳
看護研究方法論	3年前期	光田
卒業研究	4年全期	須釜、村山、小柳、光田、三浦
老年看護学概論	1年後期	須釜
老年看護学援助論	2年後期	須釜、三浦、小柳
老年看護実践方法論	3年前期	須釜、三浦
老年看護学実習I	3年後期	須釜、三浦
老年看護学実習II	4年前期	須釜、三浦
統合看護学実習	4年前期	村山、小柳
リハビテーション学科		
一般臨床医学	2年前期	小柳

† : 授業・演習の一部でも担当した場合を記載, ‡ : 専門職連携教育

4-1-1. 卒業研究論文

卒業研究は、看護学科4年次生135名が8つの分野に配置され、うちセンター教員が14名を担当した。全員が論文提出に至った。

老年看護学分野

- | | |
|-----------------|---|
| 61020003 浅井 夏実 | 他者との交流が独居高齢者の精神的健康に与える影響に関する文献検討 |
| 61020012 石原 夕莉 | 認知症高齢者の身体拘束の実態についての文献検討 |
| 61020031 奥田 あや | 医療機器が必要な在宅療養者における災害後の停電への対策と今後の課題 |
| 61020034 各務 舞 | 認知症高齢者の妄想症状に対する家族の関わり方についての文献検討 |
| 61020064 周 潔 | 「深部損傷褥瘡(DTI) 疑い」に対するアセスメント方法 |
| 61020119 水谷 日佳理 | 認知症高齢者の転倒予防方法についての倫理的問題の文献検討 |
| 61020127 安井 咲季 | 認知症高齢者の攻撃的行動・幻覚・妄想出現時の医療従事者の対応についての文献検討 |

統合看護学分野

61020022 岩田 和樹	在宅の場における軽～中等度認知症高齢者の失禁の回数及び介護者の負担軽減に効果的なケアの方法と展望についての文献検討
61020030 萩野 由唯	新型コロナウイルス感染拡大に伴う看護師のストレスの種類・対処方法について
61020053 小林 千桜	母親の持つ統合失調症が子供の成長発達に与える影響 -今後の支援体制についての文献検討-
61020058 坂口 愛実	患者や家族、介護者、医療従事者における胃瘻に関する認識について
61020128 山口 紗也夏	急性期病院に入院するストーマ造設をした高齢者に対する退院支援
61020133 山本 哲平	男性看護師が今後活躍できる場に関する文献検討
61020136 横山 真子	看護師の効果的な化粧の活用方法についての文献検討

4－2. 大学院教育 †

科目名	開講時期	担当者 †
保健学研究科保健学専攻 修士課程		
共通科目		
看護研究法	前期	須釜、村山、小柳、光田、三浦
看護理論	後期	小柳
看護学領域		
基礎・統合看護学特論 I	前期	村山、小柳、光田
基礎・統合看護学特論 II	後期	村山、小柳、光田
セルフケア学特論 II	後期	須釜、三浦
基礎・統合看護学演習 I	前期	村山、小柳、光田
基礎・統合看護学演習 II	後期	村山、小柳、光田
セルフケア学演習 I	前期	須釜、三浦
セルフケア学演習 II	後期	須釜、三浦
基礎・統合看護学特別研究	全期	村山、小柳、光田
セルフケア学特別研究	全期	須釜、三浦
保健学研究科医療科学専攻 博士後期課程		
共通科目		
保健医療連携展開学概論	前期	須釜、村山
専門科目		
看護融合科学特論 I	前期	須釜、村山
看護融合科学演習 I	後期	須釜、村山
看護融合科学特別研究	全期	須釜、村山

† : 授業・演習の一部でも担当した場合を記載

4-2-1. 修士論文

センター所属教員が指導を担当した修士課程の学生 2 名が論文を提出した。

田村 茂

背もたれの角度表示及びヘッドリフト機能付きベッドによる角度調整の一致と咽頭残留の検討

Consistency of Angle Adjustment and Pharyngeal Residuals by Beds with Backrest Angle Indication and Head Lift Function

指導教員：須釜 淳子

西本 由美

嚥下調整食を摂取し便失禁を伴う患者の失禁関連皮膚炎予防のためのスキンケアに関する研究－疑似便の粘性と拭き取りとの関係および臨床症例報告－

Study on Skin Care for Prevention of Incontinence-Associated Dermatitis in Fecal Incontinence Patients Who Eat Dysphagia Diet: Viscosity of Pseudo-stool and Its Relationship to Wiping Method, and Clinical Case Report

指導教員：須釜 淳子

4-3. 社会実装看護創成研究センター ゼミナール

2022 年度からゼミナール（通称ゼミ）を開始している。2023 年度のゼミにはセンターに所属する教員が指導責任者となる院生のみならず、基礎看護学、成人看護学分野教員が指導責任者となる院生も含めた。したがって、次の必修単位取得科目を兼ねるものである。

- 基礎・統合看護学演習 I, II (2+2 単位)
- セルフケア学演習 I, II (2+2 単位)
- 基礎・統合看護学特別研究 (10 単位)
- セルフケア学特別研究 (10 単位)
- 看護融合科学演習 I (2 単位)
- 看護融合科学特別研究 (6 単位)

1) 出席メンバー (2023 年度)

担当教員：須釜 淳子、村山 陵子、竹原 君江、中村 小百合、皆川 敦子、
小柳 礼恵、光田 益士、三浦 由佳、中井 彩乃、玉置 美春

博士課程 2 年 佐野 友香、間脇 彩奈、有賀 公亮（名古屋大学大学院）

博士課程 1 年 石亀 敬子、影浦 直子、河裾 永恵、富田 元、山本 駿

修士課程 2 年 田村 茂、西本 由美、木下 由里惠（名古屋大学大学院）

修士課程 1 年 池田 真弓、稻熊 清人、河崎 明子、齋藤 裕也、野村 梨帆

2) 概要

- I. 文献を読む力につけるために、文献を精読する機会を提供する。さらに、教育に関する報告書やガイドラインなどを読む機会を提供する。そのことにより、看護教育を取り巻く現状を理解し、研究テーマを見いだすことを支援する。
- II. 文献のクリティックを通して、看護教育学研究ならびに社会実装看護研究を進めるために必要な知識とクリティカルな思考を身につけられるよう、支援する。その過程で、研究を進める中で生じる疑問や課題を解決するための能力を養えるよう、課題を提示する。
- III. 研究課題を明確化し、研究計画を作成する。次に、作成した研究計画を倫理委員会に提出し承認を得る。さらに、研究を実施し参考論文を作成し公表するとともに、修士・博士論文としてまとめ、発表を行う。

3) 内容

研究報告、論文紹介、論文クリティックを準備、発表、ディスカッション
基本的にオンライン（Teams）にて実施した。

4) 2023年開講日時（日時はすべて、月曜日 6, 7限：18:00-21:10）

2022年度

1月 16, 23, 30 日／2月 6, 13, 20, 27 日／3月 6, 13 日

2023年度

4月 24 日／5月 1, 8, 15, 22, 29 日／6月 5, 12, 19, 26 日／7月 3, 10, 24, 31 日

8月 7, 21, 28 日／10月 2, 16, 23, 30 日／11月 6, 13, 20, 27 日／12月 4, 11, 18 日



写真4. 2023年4月の教員と大学院生（左から 最前列：中村・須釜・村山・竹原, 2列目：三浦・河裾・池田・野村・河崎・皆川・玉置・中井, 最後列：光田・山本・影浦・齋藤・稻熊・石龜・富田・小柳）

5. 社会的活動実績

5-1. 主な学会での活動

【学会での役割】

〈看護実践学会〉

村山陵子	
役割	査読委員
成果	看護実践学会誌発行に向けた論文査読に貢献した

〈日本看護科学学会〉

須釜淳子	
役割	理事、看護ケア開発・標準化委員会委員長、COVID-19看護研究等対策委員会委員長
成果	日本薬理学会との共催シンポジウムをそれぞれの年次大会で企画・運営 第43回日本看護科学学会（12月10日）、第94回日本薬理学会年会（12月16日） 看護ケアのための便秘時の大腸便貯アセスマントに関する診療ガイドライン発刊（和文、英文） 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに対し、COVID-19の会員への影響調査（2回分）で得られたデータを匿名化処理した上で寄託

村山陵子	
役割	査読委員
成果	日本看護科学学会誌発行に向けた論文査読に貢献した
小柳礼恵	
役割	看護ケア開発・標準化委員会 看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスマントに関する診療ガイドライン作成グループ
成果	ガイドライン作成に貢献した

〈国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会〉

須釜淳子	
役割	理事長

〈第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会〉

臺美佐子、三浦由佳、須釜淳子、村山陵子、小柳礼恵、	
役割	大会長（臺美佐子）、事務局長（三浦由佳）、理事長・アカデミックアドバイザー（須釜淳子）、当日運営委員（村山陵子、小柳礼恵）
成果	大会長を中心とし、学術集会の成功に向けた企画立案・実行・運営に貢献した。現地開催（会場：石川県立看護大学）+LIVE配信+オンデマンド配信のハイブリッド開催にて参加者は300名を超え、盛況のうちに終了した

〈日本褥瘡学会 中部地方会〉

須釜淳子	
役割	監事

〈日本創傷・オストミー・失禁管理学会〉

須釜淳子	
役割	副理事長、編集委員会委員長
成果	学会誌発行
村山陵子	
役割	評議員、査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。
小柳礼恵	
役割	理事、便秘対策アドホック委員会委員長、評議委員
成果	排便管理講習会の実施、排便管理に関するチーム医療の評価（エビデンス検証研究）

〈日本創傷治癒学会〉

須釜淳子	
役割	理事、COI
光田益士	
役割	評議委員

〈看護理工学会〉

須釜淳子	
役割	理事長
村山陵子	
役割	庶務担当理事、評議員、学術委員会・委員、編集委員会・委員
成果	学術委員会プロジェクトに新規採択された（「看護学生のためのエコーを用いるフィジカルアセスメント技術導入促進プロジェクト」）
光田益士	
役割	評議員、将来構想委員、編集委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読2件実施した

〈日本助産学会〉

村山 陵子	
役割	査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した

〈日本在宅ケア学会〉

三浦由佳	
役割	在宅ケアイノベーション研究研修委員
成果	オンデマンド、ライブ配信セミナーの企画運営に貢献した

〈日本老年泌尿器学会〉

小柳礼恵	
役割	評議委員

〈日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会〉

小柳礼恵	
役割	世話人

5 – 2. 主たる活動実績

1) 病院看護研究支援

【研修会・講習会等】

(1) スキルアップ支援「看護研究支援 (Stage 2) コース」4 抱点病院

Stage2

第1回 2023年8月17日 リサーチクエスチョンと概念図、研究方法について

第2回 2023年12月7日 研究計画書、倫理申請について

講師：村山陵子、小柳礼恵

(2) 2023年度臨床看護研究会

2023年11月18日

第3部シンポジウム「その時、いちばん動ける藤田学園へ～生まれ変わる藤田の看護量から質へ」

第1席 社会実装看護創成研究センター・看護部：共同研究の取り組み

演者：村山陵子

(3) 研究活動支援

【研究活動支援】

(1) ばんたね病院看護部と社会実装看護創成研究センターとの共同プロジェクト

「看護実践報告」にトライしよう！2022年11月17日～2023年12月（継続中）

講師：須釜淳子、プロジェクト参加看護師：4名

・講義&演習：グループミーティング 5月、6月：対面

・投稿論文作成：個別ミーティング

9月（対面）、10月（Teams）、11月（Teams）、12月（Teams）

(2) 病院職員依頼共同研究：マッチング

2024年2月末現在

・論文投稿済み：1件

・研究実施中：9件

(3) 藤田研究支援チーム「るぴ&Lab.」

藤田医科大学4抱点病院、社会実装看護創成研究センター、看護学科が協働し、看

護研究活動を支援するしくみづくりを促進するため、次のような目的でチームを設立した。

目的

1. 藤田医科大学における看護研究の質を高め、藤田ならではの看護の発展に貢献するため、病院看護部と社会実装看護創成研究センター・大学看護学科との看護研究の協働・連携を深める
2. 相互の連携を図りながら、臨床看護研究を促進、さらに指導できる人材を育成する

役割

- 1) 病院で看護研究を実施するためのマニュアルの作成
- 2) 研究支援希望者の把握
- 3) 各拠点病院、センター、看護学科の共同研究のマッチング
- 4) 研究進捗状況の把握
- 5) 看護部研究支援チームメンバーの育成

チーム内組織のメンバー（2023年度）

第1：宮下 照美 看護長 第2：水谷 多紀子 看護長
第3：竹腰 加奈子 看護長 第4：三浦 慎太郎 看護副主任
社会実装看護創成研究センター 村山 陵子 小柳 礼恵
保健衛生学部看護学科（第1教育病院との連携ワーキング）
竹原 君江 皆川 敦子 加藤 瞳美

2) がん看護チーム支援活動

がん看護の質向上を目的として、2021年9月に4病院（藤田医科大学病院、ばんたね病院、七栗記念病院、岡崎医療センター）と社会実装看護創成研究センターとが連携し、がん看護チームを構築した。がん看護チームは、4病院のがん分野の認定看護師・専門看護師14名（がん専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、乳がん認定看護師）が主軸となって運営し、2023年は社会実装看護創成研究センターの須釜、村山、臺（4月以降は須釜、村山）が学術活動への支援を実施した。

定例会議は月1回のオンライン会議としており、2023年度の活動には、「がん分野における医師のタスク・シフト／シェア推進」をテーマとして、薬物療法チーム、緩和ケアチーム、乳がん・放射線チームが課題を抽出し、計画を立案、推進していった。当センターからは、看護部院内認定教育としての「血管内留置カテーテル管理教育」において、エコーを用いるカテーテル管理についてアドバイスや研修での講師を務める、などでサポートを行った。

また、チームではメンバー全員が研究、症例報告、実践報告等、1件以上発表するという目標を掲げており、当センターではこの目標を達成するべく、発表や論文作成を支援していった。学術集会発表8件、学園内発表1件、英語論文投稿2篇の投稿を支援し、実現された。さらにチームメンバーのひとり、水谷 洋氏の「外陰部・下腹部の病変に伴う浮腫に対する放射線療法中の看護援助の検討」は、第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会（2023年9月17日）にて会長賞を受賞した。



写真5-1. 会長賞受賞の様子

今後、がん看護分野における Fujita 看護をしっかりと確立するとともに、国内外のがん看護の質向上を目指せるようなチーム活動をサポートしていく。

（写真は臺教授が大会長を務めた第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会(ILFJ)学術集会でのチーム集合写真）



写真5-2. ILFJに参加したチームメンバー

3) 排便サポートチーム活動

高齢者を対象とした排便ケアに関するチーム医療の普及・国立研究開発法人長寿医療研究センター 排便サポートチームのメンバーとして超高齢化社会が進む中、認知機能が低下した高齢者のニーズと医療者のアセスメントにより患者へ適切な排便ケアの提供が課題となっている。その課題を解決するために上記施設と協働して排

便ケアの質の向上と推進を実施している。

4) リハビリテーション科とのリンパ浮腫管理の実践と研究活動

藤田医科大学リハビリテーション科と社会実装看護創成研究センターと協働し、2022年1月にリンパ浮腫管理の質向上を目的としたチーム“CARE Project”を発足し、継続している。CARE Project チームメンバーは、リハビリテーション科ではリハビリテーション医学専門の医師である大高洋平教授・尾関恩准教授、理学療法学専門の小山総市朗講師をはじめ、理学療法士、作業療法士らと、社会実装看護創成研究センターの須釜、臺から成る。毎月1回の定例会議を継続して実施した。定例会議では、研究進捗報告、リンパ浮腫管理症例報告、リンパ浮腫エコーレコードメントの画像提示とフィードバック、アウトカム検討といった内容についてディスカッションを図っている。

【上肢リンパ浮腫 QOL 評価研究】

上肢リンパ浮腫 QOL 評価（LYMQOL 上肢版の日本語版作成）を、社会実装看護創成研究センター・リハビリテーション科・看護学科（キム・チュウアイ助教主導）と協働して開始し、今年度、国内学術集会（第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会）で発表した。

5) 勉強会の実施

【英語論文抄読会】

看護学科教員と毎月1回英語論文抄読会を開催した。12月末段階で通算29回実施した。参加人数は15名である。

【次世代看護研究会】

普段は異なる環境や立場で研究活動に従事しつつも、看護理工学に基づく共通の理念を有する者が交流を深め、ディスカッションを通じて互いに高め合い、ひいては次世代の看護学の発展に資することを目的とした研究会が、2022年から発足した。特に次世代の看護を担う若手研究者の育成に重点をおくものとされた。

<次世代看護研究会企画ワーキンググループメンバー>

- ・石川県立看護大学：峰松 健夫 教授
- ・金沢大学：大江 真琴 教授
- ・東京大学：仲上 豪二朗 教授
- ・藤田医科大学：村山 陵子 教授
- ・横浜市立大学：玉井 奈緒 教授

<第2回次世代看護研究会>

実行委員：石川県立看護大学（峰松 健夫、大貝 和裕、
松本 勝、長谷川 陽子）

日 時：2023年9月3日(日) 8:50～17:00

場 所：石川県立看護大学 1階 大講義室

参 加 費：無料

開催形式：ハイブリッド形式

参 加 校：石川県立看護大学、金沢大学、東京大学、藤田
医科大学、横浜市立大学

参加者は合計62名（現地参加39名 オンライン23名）
で、発表者は22名であった。本学からは、教員8名、大
学院生10名が参加し、博士課程2名、修士課程1名がプ
レゼンテーションを行った。1人18分（7分プレゼンテーション、10分質疑、講評）



写真 5-3. 第2回次世代看護研究会集合写真

6. 外部資金獲得

【科学研究費】（金額は2023年度）

1. 基盤研究 (B)

ドセタキセル療法に関連する下肢浮腫への薬理作用機序に基づく先制予防ケアの開発

2023年度～2025年度 須釜 淳子（代表） 11,830千円

2. 基盤研究 (B)

点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準：日本版の開発と普及

2020年度～2023年度 村山 陵子（代表） 1,820千円

3. 基盤研究 (B)

在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証

2022年度～2025年度 三浦 由佳（代表） 8,450千円

4. 基盤研究 (B)

看護師向け超音波検査装置を利用した前腕穿刺技術学習システム

2023年度～2025年度 村山 陵子（分担） 300千円

5. 基盤研究 (B)

リンパ浮腫ケア選定のための超音波検査技術アセスメントと遠隔システムの確立

2023年度～2026年度 須釜 淳子（分担） 三浦 由佳（分担） 7,900千円

6. 基盤研究 (B)

介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築

2022年度～2025年度 須釜 淳子（分担） 200千円

7. 基盤研究 (B)

皮膚細菌・真菌叢に着目した失禁関連皮膚炎の新規リスクファクター探索と予防ケア開発

2021年度～2024年度 須釜 淳子（分担） 100千円

8. 基盤研究 (B)

リンパ浮腫に続発するレンサ球菌での蜂窩織炎発症機序とその予防・緩和ケア対策

2021年度～2024年度 須釜 淳子（分担） 100千円

9. 基盤研究 (B)

訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装

2021年度～2024年度 須釜 淳子（分担）三浦 由佳（分担） 2,500千円

10. 挑戦的萌芽

睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発

2023年度～2024年度 三浦 由佳（代表）須釜 淳子（分担） 2,600千円

11. 挑戦的萌芽

異分野融合型研究による白癬に着目した糖尿病足潰瘍アドバンストスキンケア方法の開発

2022年度～2024年度 須釜 淳子（分担）光田益士（分担） 200千円

12. 挑戦的萌芽

リンパ浮腫の蜂窩織炎再発予防に向けたアドバンストスキンケア方法の開発

2023年度～2025年度 須釜 淳子（分担） 100千円

13. 基盤研究（C）

アドバンストスキンケア開発を目指した失禁関連皮膚炎と細菌バイオフィルム形成の関連

2023年度～2025年度 光田 益士（代表） 1,300千円

14. 基盤研究（C）

要介護高齢者の嚥下後誤嚥を予防する咽頭残留除去ケアプログラムの開発

2023年度～2025年度 三浦 由佳（分担） 2,340千円

15. 基盤研究（C）

新しいリンパ浮腫セルフケア開発のためのリンパ流遮断後の迂回路形成過程の解明

2022年度～2024年度 須釜 淳子（分担） 30千円

16. 基盤研究（C）

ドセタキセルの投与を受けた乳がん患者の下肢浮腫の臨床的特徴に関する観察研究

2021年度～2023年度 須釜 淳子（分担） 50千円

17. 基盤研究（C）

喉頭摘出者の食道発声トレーニングプログラムの構築と効果の検証

2021年度～2024年度 三浦 由佳（分担） 260千円

18. 基盤研究（C）

繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装

2022年度～2024年度 村山 陵子（分担） 100千円

19. 若手研究

急性期病院における1日に必要な“看護師の人数・看護師情報”予測スケールの開発

2022年度～2026年度 小柳 礼恵（代表） 4,550千円

【その他の助成金】

1. (公社)日本看護協会 感染拡大に備える看護提供体制の確保に関する調査研究助成事業

高度急性期病院における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う看護提供体制の変化が医療の質、看護師の労務状況へ及ぼす影響分析。

2022年度～2023年度 小柳 礼恵（代表） 1,786千円

2. 公益財団法人テルモ生命科学振興財団 III研究助成金

認知症便秘患者に対する排便サポートチームの介入方法の検討

2023年度 小柳 礼恵（代表） 1,000千円

3. 学内教員研究助成

皮膚常在菌に着目した失禁管理皮膚炎の関連因子探索

2023年度 光田 益士（代表） 1,200千円

4. 共同研究（日本製紙クレシア株式会社）

2022年～2023年度 須釜 淳子（代表） 光田 益士（分担） 金額非開示

5. 受託研究契約（アルケア株式会社）

光田 益士（代表） 金額非開示

6. 受託研究契約（アルケア株式会社）

光田 益士（代表） 金額非開示

7. 奨学寄附金（アルケア株式会社）

光田 益士（代表） 金額非開示

8. 厚生労働学研究費 地域医療基盤開発推進研究事業

特定行為研修の修了者の活用に際しての方策に関する研究

2023年度 須釜 淳子（分担）、三浦 由佳（分担） 400千円

9. 日本医療研究開発機構研究委託費 長寿科学研究開発事業

AI／ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援

2021～2023年度 須釜 淳子（分担） 300千円

10. 内閣府 先端的サービスの開発・構築や先端的サービス実装のためのデータ連携等に関する調査事業

AI診断支援ソフト搭載のエコーを活用した地域医療・介護におけるタスク・シフト／シェア推進

2023年度 須釜 淳子（提案者）、三浦 由佳（提案者） 38,774 千円

11. 公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成 看護研究

リンパ浮腫管理のためのエコーケアアルゴリズムの考案と効果検証.

2023年～2024年 臺 美佐子、須釜 淳子 1,000 千円

7. 研究業績

【論文】

1. Kohta M, Koyanagi H, Inagaki Y, Nishikawa K, Kobayashi N, Tamura S, Ishikawa M, Banno Y, Takekoshi K, Mano K, Sugama J. Selective detection of urease-producing bacteria on the genital skin surface in patients with incontinence-associated dermatitis. *Int Wound J*, 2023;1-9. doi:10.1111/iwj.14209
2. Kohta M, Koyanagi H, Inagaki Y, Nishikawa K, Kobayashi N, Tamura S, Ishikawa M, Banno Y, Takekoshi K, Mano K, Sugama J. Bacterial species distribution on the genital skin of hospitalized patients with stroke manifesting incontinence-associated dermatitis: A cross-sectional study. *Geriatr Gerontol Int*. 2023;10.1111/ggi.14624. doi:10.1111/ggi.14624
3. Kohta M, Sugiyama A, Hachimori A, Sugama J, Fukuro S. User acceptance of a mobile application prototyping model for supporting pressure injury treatment at home care. *J Nurs Sci Eng*. 2023;11: 28-36.
4. Murayama R, Ashida S, Minatani M, Matsuzaki M, Yoshida M, Haruna M. Symptoms of pelvic organ prolapse and related factors during five years after vaginal delivery: A cross-sectional study. *Journal of Japan Academy of Midwifery*, 2023, 37(3): 243-251, 2023, <https://doi.org/10.3418/jjam.JJAM-2023-0012>
5. Murayama R, Abe-Doi M, Masamoto Y, Kashiwabara K, Komiyama C, Sanada H, Kurokawa M. Verification study on the catheterization of an upper arm vein using the new long peripheral intravenous catheter to reduce catheter failure incidence: A randomized controlled trial. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 2023; 17(1):52-59. DOI: 10.5582/ddt.2022.01108
6. 村山 陵子, 阿部 麻里. 超音波検査装置を用いる末梢静脈カテーテル留置・固定のための新ドレッシングフィルムの開発. 看護理工学会誌, 2023
7. Tsuchiya S, Suriadi, Sanad H, Sugama J, Oe M. Relationship between DMIST and healing of diabetic foot ulcers. *International Wound Journal*. 2023; 20(2): 345–350.
8. Iuki A, Fukuda M, Akase T, Sugama J, Yanagita T. Why and by How much is insulin absorption reduced by insulin-derived amyloidosis? A scoping review. *Yakugaku Zasshi*,

2023;143(10):865-870.

9. Horiguchi T, Nakamura S, Matsui Y, Ueda T, Kageura N, Oe M, Seto N, Yanagita T, Sugama J. Effectiveness of management protocol for insulin balls in diabetics: a scoping review. Diabetology International, 2023.
10. Abe-Doi M, Murayama R, Morita K, Nakagami G, Sanada H. Predictive factors for infusion site induration after outpatient chemotherapy in Japan: a secondary analysis. Asian Nurs Res. 2023;17(5)269-275. <https://doi.org/10.1016/j.anr.2023.11.005>.
11. Takeuchi S, Koyanagi H, Yamada S, Nishizawa S, Matsuura T. Case analysis of effective interventions for chronic constipation in older adult patients with dementia. Geriatr Gerontol Int. 2023;23(7):573-574. doi: 10.1111/ggi.14617

【学会発表】

1. 能勢 千絵乃, 臺 美佐子, 神納 美保, 大森 鮎子, 藤城 尚美, 山村 真巳, 升森 宏次, 前田 耕太郎. AYA 世代の神経因性排便障害患者に対する経肛門的洗腸療法導入とセルフケアを継続支援した 1 例. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 一般演題口演, 新宿, 2023.2.25.
2. 野田 早智恵, 臺 美佐子, 神納 美保, 宇野 みゆき, 伊藤 佳織, 松田 日出三, 高井 亜希, 河田 健司, 須釜 淳子, 眞野 恵好. 第 37 回日本がん看護学会学術集会, 外来リツキシマブ療法導入における認知症患者と家族に対する Infusion reaction 対策への専門職チームアプローチ, 横浜, 2023.2.25-26.
3. 織田 千賀子, 中村 小百合, 加藤 瞳美, 近藤 彰, 村山 陵子, 三浦 由佳, 須釜 淳子. 「VR 術後観察看図アプローチ」の実践報告-主体的・対話的で深い学びを引き出す授業マジック-. 第 11 回看護理工学会学術集会, 理事長企画, 看護教育 DX 実践事業, pp38, 兵庫, 2023.6.9-10.
4. 木下 由里惠, 成田 雅, 光田 益士, 須釜 淳子, 竹原 君江. 足白癬は創傷治癒を遅延させるか—白癬菌ケラチナーゼによる創傷治癒関連タンパク質の分解に関する基礎的検討一. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp47, 兵庫, 2023.6.9-10.
5. 三浦 由佳, 大橋 奈美, 田端 支普, 松下 寛代, 西村 和子, 中井 彩乃, 石龜 敬子, 須釜 淳子. 排泄ケアエコーにおける目線カメラ付きスマートグラスを用いた遠隔技術評価の有用性. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp49, 兵庫, 2023.6.9-10.
6. 木下 拓磨, 高橋 聰明, 村山 陵子, 仲上 豪二朗, 真田 弘美, 野口 博史. MaskR-CNN による前腕の縦断超音波画像群からの表皮・血管領域推定と 3D モデル生成. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp63, 兵庫, 2023.6.9-10.
7. 阿部 麻里, 村山 陵子, 森田 光治良, 仲上 豪二朗, 真田 弘美. 末梢静脈カテーテルを用いた抗がん剤投与後の注射部位硬結発生の予測因子. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp79, 兵庫, 2023.6.9-10.
8. 田村 茂, 三鬼 達人, 山崎 美代, 石谷 朋紀, 生駒 俊裕, 會川 美冬, 光田 益

- 土, 三浦 由佳, 須釜 淳子, 眞野 恵好. リクライニング角度表示およびヘッドリフト機能付きベッドによる姿勢調整の再現性の検討—エコーを用いた評価方法—. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp85, 兵庫, 2023.6.9-10.
9. 光田 益土, 杉山 昌生, 八森 淳, 須釜 淳子, 袋 秀平. 在宅での褥瘡治療サポートモバイルアプリの開発、およびその使用者受容に影響を与える要因探索. 第 11 回看護理工学会学術集会. pp87, 兵庫, 2023.6.9-10.
10. 奥山 奈々子, 光田 益土, 須釜 淳子. 災害医療で使用される従来型および電子トリアージの現状と課題：文献レビュー. 第 11 回看護理工学会学術集会, pp90, 兵庫, 2023.6.9-10.
11. Kohta M, Koyanagi H, Inagaki Y, Nishikawa K, Kobayashi N, Tamura S, Ishikawa M, Takekoshi K, Mano K, Sugama J. Selective detection of urease-producing bacteria on genital skin surface in hospitalized patients with incontinence-associated dermatitis. 12th of IAGG Asia/Oceania Regional Congress, pp417, Kanagawa, 2023.6.12-14.
12. Koyanagi H, Takeuchi A, Matsuura T, Sugama J. The Evaluation of the health care team intervention for the elderly with dementia, 12th of IAGG Asia/Oceania Regional Congress, pp417, Kanagawa, 2023.6.12-14.
13. 都築 弘典, 岩瀬 敬佑, 光田 益土, 須釜 淳子. 「床ずれ危険度チェック表」を用いた床ずれ予防プログラム実装における促進・阻害要因の探究（プロトコール）. 保健医療福祉における普及と実装科学的研究会 第 9 回学術集会. 愛知, 2023.7.1.
14. 光田 益土, 西山 貴子, 井田 美和子, 古谷 一真, 塩地 由美香, 松嶋 文子, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 脳卒中患者のアドバンストスキンケアモデル構築を目指した陰部洗浄・清拭法の開発:単施設ランダム化非盲検クロスオーバー試験. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 理事長企画, pp259, 宮城, 2023.7.8.
15. 光田 益土, 須釜 淳子. 皮膚 pH 上昇に関するウレアーゼ産生菌検出のための培地開発. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. pp338, 宮城, 2023.7.8.
16. 小柳 礼恵, 竹内 さやか, 山田 理, 石原 拓磨, 松浦 俊博, 須釜 淳子. チーム医療に関するエビデンス構築. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp257, 宮城, 2023.7.8.
17. 小柳 礼恵. エクセレントな排便技術の普及. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp248, 宮城, 2023.7.8.
18. 佐野 友香, 小柳 礼恵, 村山 陵子, 須釜 淳子, 眞野 恵好. 高度急性期病院における入院患者の便秘有病率調査. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp356, 宮城, 2023.7.8.
19. 足立 さゆり, 山本 淳子, 小柳 礼恵. 入退院支援加算算定後に関わった重度褥

- 瘡患者への介入. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp368, 宮城, 2023.7.8.
20. 河崎 明子, 佐々木 早苗, 三宅 知美, 大塙 純, 小柳 礼恵, 阿部 麻里, 仲上 豪二朗. るい瘦患者へのウレタンフォームクッション使用が効果的な除圧となり尾骨部褥瘡が治癒した一症例. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp330, 宮城, 2023.7.8.
21. Miura Y, Ikeda M, Nakai A, Koyanagi H, Murayama R, Sugama J. Image quality and image acquisition time for bladder and rectal ultrasound performed by home-visit nurses. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. pp293, 宮城, 2023.7.8.
22. 大森 鮎子, 藤城 直美, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 自宅退院を目標とした高齢者の手術部位感染創に対する陰圧閉鎖療法の一例. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会. pp385, 宮城, 2023.7.9.
23. 小柳 礼恵, 高井 亜希, 佐野 友香, 真野 恵子. 急性期病院における日々の人員調整の予測に必要なエキスパートオピニオンに関する研究. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.25-26.
24. 須釜 淳子. 在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会設立の意義と方向性. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会, 在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会企画, pp325, 兵庫, 2023.9.2.
25. 光田 益士, 須釜 淳子. 個人宅での褥瘡予防を目指した実装科学の展開. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会 在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会企画. pp325, 兵庫, 2023.9.2.
26. 岩瀬 敬佑, 都築 弘典, 光田 益士, 播磨 孝司, 須釜 淳子. 自宅での床ずれ予防プログラムの実施に関する促進因子・阻害因子の探索. 第 25 回日本褥瘡学会学術集会 在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会企画. pp325, 兵庫, 2023.9.2.
27. 田崎 あゆみ, 間脇 彩奈, 小柳 礼恵, 臺 美佐子, 須釜 淳子. 小児リンパ浮腫患者用 QOL 評価尺度を用いた若者の QOL 実態調査. 第 12 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp18, 石川, 2023.9.17.
28. 阿部 麻里, 村山 陵子, 仲上 豪二朗, 真田 弘美. 経皮静脈的抗がん剤投与直後の注射部位局所の皮下浮腫および血栓と再来日に生じる硬結の関連: 血管温存の視点から. 第 12 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp35, 石川, 2023.9.17.
29. 間脇 彩奈, 中谷 壽男, 吉村 文, 臺 美佐子, 光田 益士, 長尾 静子, 須釜 淳子. 看護ケア開発を目的としたドセタキセル誘因性浮腫モデルマウスの作製. 第 12 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp36, 石川, 2023.9.17.
30. 水谷 洋, 臺 美佐子, 神納 美保, 佐野 克明, 須釜 淳子, 真野 恵子. 外陰部・下腹部の病変に伴う浮腫に対する放射線療法中の看護援助の検討. 第 12 国際

リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp37, 石川,
2023.9.17.

- 31.野田 早智恵, 臺 美佐子, 安藤 洋介, 神納 美保, 河田 健司, 須釜 淳子, 真野 恵子. 下肢リンパ浮腫に対する運動療法期間中の転倒と今後の対策. 第 12 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp37, 石川,
2023.9.17.
- 32.宇野 みゆき, 臺 美佐子, 神納 美保, 須釜 淳子, 真野 恵子. 全身浮腫が顕著ながん終末期患者への緩和ケアチームによる輸液管理と心理的援助：症例報告. 第 12 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp38, 石川, 2023.9.17.
- 33.神納 美保, 臺 美佐子, 安藤 洋介, 秋吉 麻紀, 野田 早智恵, 宇野 みゆき, 河村 愛, 河田 健司, 須釜 淳子, 真野 恵子. リンパ浮腫出現を危惧し標準治療を選択しなかった乳がん患者への意思決定支援. 第 12 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, pp38, 石川, 2023.9.17.
- 34.光田 益士, 小柳 礼恵, 稲垣 喜信, 石川 幸, 竹腰 加奈子, 大高 洋平, 松本 省二, 杉浦 一充, 須釜 淳子. 失禁関連皮膚炎を呈する脳卒中入院患者の陰部皮膚表面にはウレアーゼ産生菌が有意に存在する. 第 55 回藤田医科大学医学会学術大会, pp32, 愛知, 2023.10.26.
- 35.三浦 由佳. 在宅で広がる可視化にもとづく排便ケア選択. 第 3 回慢性便秘エコー研究会, 特別講演①, pp6, 東京, 2023.10.28.
- 36.結束 貴臣, 津田 桃子, 松本 勝, 三浦 由佳, 三澤 昇. コンセンサスミーティング～治療とケア～. 第 3 回慢性便秘エコー研究会, pp8, 東京, 2023.10.28.
- 37.植村 優衣, 田端 支普, 大橋 奈美, 三浦 由佳. 認知症を有する高齢利用者に対してエコーを用いたことにより排便コントロールが行えた一例. 第 3 回慢性便秘エコー研究会, pp14, 東京, 2023.10.28.
- 38.三浦 由佳, 松下 寛代, 西村 和子, 谷川 阿紀, 芝崎 奈美恵, 須釜 淳子. 訪問看護におけるエコーを用いた排便ケア継続の要因. 第 3 回慢性便秘エコー研究会, pp15, 東京, 2023.10.28.
- 39.田口 大輔, 谷田 由紀子, 小原 伊都子, 松井 孝之, 神谷 正樹, 西崎 成紀, 加藤 太一, 竹内 さやか, 小柳 礼恵, 加賀谷 斎, 松浦 俊博. 第 3 回慢性便秘エコー研究会, pp15, 東京, 2023.10.28.
- 40.Kohta M. Dissemination and implementation science of the PPRA-Home (Pressure Injury Primary Risk Assessment Scale for Home Care) in Japan. Taiwan Wound, Ostomy, and Continence Nurses Association, Invited lecture, Taipei, 2023.10.29.
- 41.田野 真佐実, 光田 益士. 新生児集中治療管理室／新生児回復室における医療従事者の手指衛生プロトコルの開発. 第 32 回日本新生児看護学会学術集会. pp12, 神奈川, 2023.11.4.

42. 木下 由里恵, 成田 雅, 光田 益士, 須釜 淳子, 竹原君江. ケラチナーゼによる創傷治癒関連タンパク質の分解に関する基礎的検討. 第 53 回日本創傷治癒学会学術集会. pp88, 群馬, 2023.11.19.
43. 光田 益士, 小柳 礼恵, 稲垣 喜信, 小林 南菜子, 西川 圭二, 田村 茂, 石川 幸, 竹腰 加奈子, 真野 恵子, 須釜 淳子. 失禁関連皮膚炎の存在と陰部皮膚表面のウレアーゼ産生菌の検出率および生菌数との関連性. 第 53 回日本創傷治癒学会学術集会. pp101, 群馬, 2023.11.20.
44. 佐野 友香, 小柳 礼恵, 村山 陵子, 須釜 淳子, 真野 恵好. 特定機能病院入院患者の便秘有病率に関する看護師のコンピテンシー. 第 43 回 日本看護科学学会学術集会, pp 556-557, 山口, 2023.12.10.
45. 竹原 君江, 久野 史柳, 中西 啓介, 柳田 俊彦, 須釜 淳子. インスリンボールの疫学に関するスコーピングレビュー. 第 43 回 日本看護科学学会学術集会, pp 1142, 山口, 2023.12.10.
46. 向井 加奈恵, 丹野 寛大, 須釜 淳子, 柳田 俊彦, 菅野 恵美. リポハイパートロフィーと限局性インスリン由来アミロイドーシスの病理学的特徴：スコーピングレビュー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, pp 1142-1143, 山口, 2023.12.10.
47. 伊吹 愛, 福田 真佑, 赤瀬 智子, 須釜 淳子, 柳田 俊彦. インスリンボール部位におけるインスリン吸収低下のメカニズム：スコーピングレビュー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, pp 1143, 山口, 2023.12.10.
48. 中村 小百合, 影浦 直子, 大江 真琴, 松井 優子, 堀口 智美, 上田 映美, 濑戸 奈津子, 柳田 俊彦, 須釜 淳子. インスリンボールのアセスメント：スコーピングレビュー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, pp 1144, 山口, 2023.12.10.
49. 堀口 智美, 大江 真琴, 松井 優子, 上田 映美, 中村 小百合, 影浦 直子, 濑戸 奈津子, 柳田 俊彦, 須釜 淳子. インスリンボールの管理方法：スコーピングレビュー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, pp 1144-1145, 山口, 2023.12.10.
50. 岩瀬 敬佑, 都築 弘典, 光田 益士, 須釜 淳子. 床ずれ予防プログラムを実施するための障壁と促進要因～介護支援専門員に焦点を当てて～：パイロット研究. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, pp 1188, 山口, 2023.12.10.

【刊行物】

1. 松本 勝, 玉井 奈緒, 三浦 由佳, 高橋 聰明, 北村 言, 真田 弘美. 特集 老年看護学の新しい姿, Seminar 3. エコーを用いたアセスメントに基づく高齢者の便秘ケア, *Geriatric Medicine*. 2023; 61(3):221-226.
2. 玉井 奈緒, 松本 勝, 三浦 由佳, 真田 弘美. 実践講座 リハビリテーション治療に活かすエコー④ 排泄ケアにおけるエコーの活用. 総合リハビリテーション. 2023; 51(4):425-431.
3. 阿部 麻里, 高橋 聰明, 村山 陵子. がん看護に生かす！ナースのはじめてのエコー, ステップ 3 はじめての点滴（末梢静脈）エコー 血管を可視化することで注

射部位の有害事象を予防. YORi-SOU がんナーシング. 2023;13:293-300.

4. 村山 陵子. ケアの質向上と業務の効率化につながるエコー活用, エコーを活用した末梢静脈カテーテル留置（穿刺）. 看護管理. 2023;10:882-886.
5. 山口 浩平, 三浦 由佳, 戸原 玄. 嘸下エコー（筋量, 筋質, 咽頭残留, 誤嚥). 日本ディサースリア臨床研究, 2023;13(1):48-53.

【セミナー・シンポジウム・ワークショップ・交流セッション・学園発表】

1. 臺 美佐子. がん治療とリンパ浮腫, がん看護研修スキルアップセミナー, 特別講演, 2023.3.4. (オンライン)
2. 小柳 礼恵. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 排便管理講習会, 2023.5.14. (オンライン)
3. 三浦 由佳, 須釜 淳子. 誤嚥と咽頭残留を可視化するポイントオブ嚥下ケアエコー. 第 96 回日本超音波医学会, ワークショップ救急（POCUS・横断）ポイントオブケア看護エコー最前線, 埼玉, 2023.5.27-29.
4. 須釜 淳子. ジョイントセッション 2 「エビデンスに基づく看護技術の創成が期待される看護系学会の目指すもの」看護理工学会から, 第 11 回看護理工学会. pp28, 兵庫, 2023.6.9-10.
5. 村山 陵子. ハンズオンセミナーベスト実践, 前腕エコー「見えればわかる血管の真の姿」, 第 11 回看護理工学会, 兵庫, 2023.6.9-10.
6. 光田 益士, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 皮膚常在菌に着目した失禁関連皮膚炎予防の看護ケア技術開発. 第 9 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会, 2022.6.20.
7. 三浦 由佳, 須釜 淳子. 携帯型エコーを用いた誤嚥・咽頭残留の観察方法の普及に向けた取り組み. 第 9 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会, 2022.6.20.
8. 光田 益士. これからのは在宅褥瘡管理と連携のありかた 看護師編. ナースの星 Web セミナー. 2023.6.29-30. (オンライン)
9. 三浦 由佳, 北村 言. “明日の臨床から使える看護エコー”～食べる(嚥下), 出す(排尿・排便)を可視化しよう～. 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, ハンズオンセミナー, 東京, 2023.7.1-2.
10. 光田 益士. これからのは在宅褥瘡管理と連携のありかた ケアマネジャー編. ナースの星 Web セミナー. 2023.7.6-7. (オンライン)
11. 光田 益士. 「使用の継続性」に着目したテープ材の新評価技術開発. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 特別企画, ランチョンセミナー. pp212, 宮城, 2023.7.8.
12. 須釜 淳子. 看護学におけるエビデンスを普及させるための社会実装の取り組み. 日本看護研究学会第 49 回学術集会, 研究方法セミナー 2, 2023.8.20. (オンライン)
13. 織田 千賀子, 近藤 彰, 加藤 瞳美, 須釜 淳子, 村山 陵子, 三浦 由佳, 浅岡 裕子, 石橋 ひろ子, 中村 小百合. 「リアル×VR×看図アプローチ」によるイメー

ジギャップの変化—主体的・対話的で深い学びがきたす効果—. 日本看護教育学会
第33回学術集会, 交流セッション6. 福岡, 2023.8.26.

14. 三浦 由佳, 須釜 淳子. やってみよう！エコーを用いた誤嚥・咽頭残留の観察.
第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, プレコングレスセミナー,
神奈川, 2023.9.1.
15. 光田 益土. 看護理工学的視点からみた持続的摩擦ずれ緩和シートの効果. 第25
回日本褥瘡学会学術集会, スポンサードセミナー, pp395, 兵庫, 2023.9.1.
16. 須釜 淳子. 日本褥瘡学会25周年記念—その時歴史が動いた— 日本褥瘡学会25
周年の歩み 3. アカデミック 3) MDRPUのコンセンサスシンポジウム. 第25回
日本褥瘡学会学術集会特別企画, pp272, 兵庫, 2023.9.2.
17. 村山 陵子. 医療従事者と医工連携看護師・診療放射線技師・臨床工学技士, 東
京都医工連携HUB機構「令和5年度 医工連携人材育成講座」第7回, 2023.9.1.3.
(オンライン)
18. 村山 陵子. 看護理工学会・看護人間工学会・日本看護技術学会3学会合同ミニ
セッション「エビデンスに基づく看護技術の創成が期待される看護系学会の紹
介」看護理工学会から, 第5回看護人間工学会. pp12, 愛知, 2023.9.16.
19. 三浦 由佳, 松本 勝, 荒井 よう子, 高地 弥里. エコーランバーチャルアセスメントとリンパド
レナージ体験. 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術
集会. pp30, 石川, 2023.9.17.
20. 水戸 優子, 武田 利明, 佐伯 由香, 須釜 淳子. エビデンスに基づく看護技術の
創成が期待される看護系学会のチャレンジ. 日本看護技術学会第21回学術集会,
交流セッション8理事会企画3学会合同セッション, 熊本, 2023.10.15.
21. 光田 益土. 持続的局所摩擦ずれ緩和シートの効果. 第31回日本慢性期医療学会
学術集会, ランチョンセミナー, pp134, 大阪, 2023.10.19.
22. 三浦 由佳, 保坂 明美, 中村 深雪. 全力応援！嚥下エコーPractice. 第9回日本
NP学会学術集会, ハンズオンセミナー, 北海道, 2023.10.20.
23. 小柳 礼恵. 在宅保健師会「あいち」研修会：在宅における排便管理, 2023.11.6.
(オンライン)
24. 須釜 淳子（日本褥瘡学会理事長）.きょうは床ずれ予防の日, NHK おはよう日
本, 2023.10.20. (オンライン)
25. 須釜 淳子（日本褥瘡学会理事長）.「床ずれ予防の日」重症化で死にいたること
も 予防対策は, NHK NEWS WEB, 2023.10.20.
26. 村山 陵子. 藤田医科大学病院4拠点合同 2023年度臨床看護研究会 第3部シ
ンポジウム「その時、いちばん動ける藤田学園へ～生まれ変わる藤田の看護 量
から質へ～」社会実装看護創成研究センター・看護部：共同研究の取り組み. 愛
知, 2023.11.17.
27. 三浦 由佳, 須釜 淳子. 地域で広がる嚥下エコーによるケア選択. 第43回日本
看護科学学会学術集会, ランチョンセミナー：第6のフィジカルアセスメント～エ

- コードを用いた看護ケアの最新 Up to Date ~, pp141, 山口, 2023.12.9.
28. 村山 陵子. パネルディスカッション 1 人工知能 (AI) を活用した新しい看護実践・看護研究「看護実践が変わる！人工知能のエコーへの活用」, 第 43 回 日本看護科学学会学術集会, pp 110-111, 山口, 2023.12.9.
29. 小柳 礼恵. 認知症患者への最新テクノロジーの活用：看護実践と研究. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, ランチョンセミナー：最新テクノロジーによるスマートケア - ロボット技術+IT 技術がベッドサイドケアの質を向上 -, pp155, 山口, 2023.12.10.

【受賞歴】

1. 2023 年度看護理工学会 学会賞

遠藤 真穂, 小倉 康平, 大貝 和裕, 岡本 成史, 真田 弘美, 須釜 淳子. 誤嚥性肺炎発症を唾液タンパク質から検知することを目標とした, 頬粘膜唾液タンパク質採取手法の検討と プロテオミクス解析による評価. 看護理工学会誌 2023, 10 卷, p. 66-75.

2. 会長賞（英語研究部門）

Miura Y, Ikeda M, Nakai A, Koyanagi H, Murayama R, Sugama J. Image quality and image acquisition time for bladder and rectal ultrasound performed by home-visit nurses. 第 32 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. pp293, 宮城, 2023.7.8.

3. 第 55 回藤田医科大学医学会優秀演題賞(コ・メディカル系)

光田益士, 小柳礼恵, 稲垣喜信, 石川幸, 竹腰加奈子, 大高洋平, 松本省二, 杉浦一充, 須釜淳子. 失禁関連皮膚炎を呈する脳卒中入院患者の陰部皮膚表面にはウレアーゼ産生菌が有意に存在する. 第 55 回藤田医科大学医学会学術大会. pp32, 愛知, 2023.10.26.

4. 優秀演題賞

阿部 麻里, 村山 陵子, 仲上 豪二朗, 真田 弘美. 経静脈的抗がん剤投与直後の注射部位局所の皮下浮腫および血栓と再来日に生じる硬結の関連：血管温存の視点から. 第 12 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会プログラム・抄録集. 2023:35. 石川, 2023.9.17.

5. 会長賞

水谷 洋, 臺 美佐子, 神納 美保, 佐野 克明, 須釜 淳子, 眞野 恵子. 外陰部・下腹部の病変に伴う浮腫に対する放射線療法中の看護援助の検討. 第 12 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会プログラム・抄録集. 2023: 37, 石川, 2023.9.17.

社会実装看護創成研究センター 2023 年報

発行年月日：2023 年 12 月 31 日

発行責任者：〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

藤田医科大学研究推進本部 イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター

須釜淳子
